

# 第7回「茶飲みの市」

～参加者が少ないながらも＊かぼちゃ＊は完売～



今回も、公民館長の母上さまが「ようかん」を、山崎老人クラブ会長が「びわ」を差ししてくれました。ありがとうございます

また、安心院高校の一年生の生徒さん四名が手伝いに来てくれました。今回は若干参加者が少なくて、少し暇を持て余し気味でしたが、気が付いたことをどんどんしてくれました。

七月十三日(日)の午前十時からの約二時間、津房地区公民館主催の第七回目の「茶飲みの市」を開催しました。今回、県立安心院高校で育てられたかぼちゃ十五個ほか、なす・ジャガイモ・ししとう・トマトを出品いただきました。特にかぼちゃは皆さんが、「安い」と言ってどんどん買ってくださいました。一個三五〇円が高いのか安いのか私にはわかりませんでした。後日スーパーで四分の一の切り売りで、一つ三九〇円でしたので、まさに「安い」でした。また、安心院高校の一年生の生徒さん四名が手伝いに来てくれました。今回は若干参加者が少なくて、少し暇を持て余し気味でしたが、気が付いたことをどんどんしてくれました。

## 津房地区公民館便り

編集・発行  
津房地区公民館

電話番号  
48-2001



## 「今年もありがとう」

津房小学校の4・5年生がプランター4つを持ってきました。コリウス、ベゴニア、ポーチュラカなどの寄せ植えです。

植物は、見えないところにある根がしっかりしていればぐんぐん育ちます。持ってきてくれて、いきなり日照りが続き、水を遣ったのですが一種類枯れてしまいました。別の花を買って植え足しておきます。「ごめんなさい」



「市」も七回目を数えましたが、参加してくださる方の顔ぶれはいつも公民館を利用してくださる方とそのお友達が中心で、なかなか「新しい」方はいらっしゃいません。もともと、たくさんの方々に公民館を利用していただきたい、地域の方が集まる交流の場にしたいと始めました。今後は、御来場者の幅を広げる工夫が必要だと思っています。

① 地区の皆さんは基本的に大なり小なり「田畑」をお持ちで、何かしらの野菜類を育てていらっしゃる↓農産物の購入はあまりしない。

② 三月の「市」は日用品等のバザーでとてもにぎわう。

③ 地元の安心院高校はよく協力してくれる。

地域のみなさまからの意見も取り入れながら取り組みたいと思いますので、ご意見をお聞かせください。

# 「私、競馬に行ってきました」

ウマはなぜ速く走れるのか？

油絵教室の永田 先生が、檜本「若宮社」に奉納した神馬の絵の話をされていた時に、地域おこし協力隊の松沢女史が「私、競馬に行きました！」と。



永田先生は、「ウマは走るときには一本足なんですよ」とおっしゃいました。

はゆつくりと歩くとき

は、右後↓右前↓左後↓左前の順に足を前に出しながら歩きます。

ちよつと「はや足」になると、右前・左後↓左前・

右後と対角線になっている足を同時に前に動かします。

「パッカ、パッカ…」という二拍子です。

もう少し速い「駆け足」になると「パカラツ、パカラツ…」という三拍子になります。

競馬馬のように全速力になると、右後↓左後↓右前↓左後の順に一本ずつの足で地面をけて飛びように走ります。

永田先生が話されたように、常に一本足なのです。(地面をける脚が一本ずつで、常に一本しか地面についていないわけはありませんし、四本とも空中にあることもあります)。

さて、ウマが速く走れる理由は、蹄(ひづめ)に

あります。地面に食い込ませて、脚を後ろに蹴ることで前方への推進力を得るためには、きつとこんな形が最適だったのでしょう。上の写真を見ると、蹄爪が一つしかないのがわかるでしょう。実はウマは中指(第三指)一本で立っているのです。



つまり、左右・前後四本の脚とも中指一本で体を支えているのです。こんな感じ← 他の指はなくなっているのです。

一方、ウシやヤギは、スピードも大事だけれど、草原だけでなく、少しでもこぼしたところや岩場も歩くことができるように、中指と薬指の二本を残した蹄をしています。



ちなみに、ウマの「かかと」は左の写真矢印部分です。かかとまで足の長さの半分ぐらいありますね。多くの動物は四本



お邪魔します!

昨夏から今年にかけて、津房地区で亡くなられた方の遺族のみなさまから、たくさんの「香典返し」をいただきました。

公民館長の大坪が「初盆参り」にお伺いさせていただきます。ご多忙な折誠に申し訳ありませんが、線香の一つも上げさせてください。

悲しいことですが、お参りに伺う家庭が多いので、いつ頃ということが申し上げられません。よろしくお願いいたします。

家にネコやイヌを飼っていたら、撫でてあげながらその体のつくりを探ってみましょう。



『カメの甲羅はあばら骨 ~人体で表す動物図鑑~』(川崎悟司/SBクリエイティブ)

の足で体をささえるので安定します。しかし、私たちヒトは二本の脚で体を支え、安定するために指先からかかとまでで地面に接する面積を広くする必要があります。興味があれば、こんな本があります。小中学生や高校生も夏休みになりました。読んでみてください。